

Ai センター

■ スタッフ

科長（センター長）
専任助教

兼児敏浩
久保岡牧子

■ Ai と Ai センター

当センターは平成 21 年 9 月に中央部門として設立され、今年で設立 15 年になります。

当院における Ai（Autopsy imaging、死亡時画像診断）は、平成 15～17 年ごろから救急部門を中心に開始され、平成 18 年（2006 年 9 月）には医療の質・倫理検討委員会において推奨される院内での公式のシステムとなりました。その後、Ai の社会的ニーズの高まりを受けて、Ai の質を高め、外部からの要請にも対応が可能なように、独立したセンターとして設置されたものです。中央放射線部が主体となって運用されていますが、Ai 症例検討会を開催するなど、組織横断的な活動も行っています。

Ai は死亡時に CT を中心とした画像診断を行い、死因究明の一助とする方法ですが、非外傷死の 3 割程度、外傷死のほとんどの事例で死因の推定が可能となるといわれています。また、よりの確な死因究明に貢献するだけでなく、医療施設で亡くなった方については診療行為関連死に関連する調査、医療施設以外で亡くなった方については事件性の有無に関係する調査においても威力を発揮します。当院は Ai の先進的な施設として、また、国立大学附属病院における草分けとして、積極的に Ai に関わってきており、Ai 学会によって、Ai 認定施設（施設 A）に認定されています。

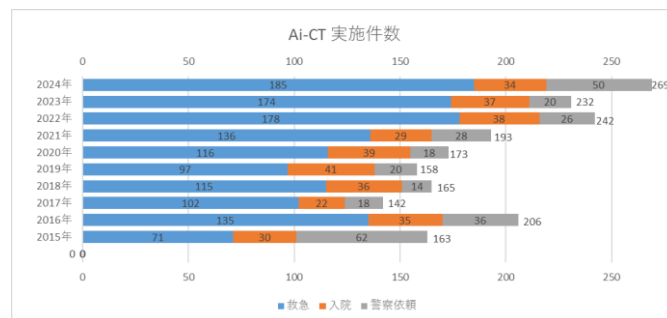
また、2019 年に「死因究明等推進基本法」が公布され、翌年に施行されました。その第 15 条に「死亡画像診断を活用するための連携協力体制の整備」が明記され、都道府県の医師会や警察などが合同研修会を開催するなど Ai に対する認知や理解が広がってきています。

■ 実績

過去 10 年間の Ai 実施件数をグラフに示します。

実施件数は、ここ 10 年では 2024 年の 269 件が最も多く、3 年連続で 200 件を超えています。

医療施設外の死亡事例に対する警察からの依頼に関しては、年によって件数にばらつきはあるものの、2024 年は 50 件の依頼があり、前年の 2 倍以上の件数でした。



当センターでは、毎年警察学校にて現役の警察官や海上保安官を対象に Ai-CT 読影の講義を行い、三重県警と連携して死因究明に努めています。

2023 年には Ai センターの活動を中部原子力懇談会広報誌や中日新聞に取り上げていただき、たくさんの方々からの反響がありました。



2024 年は、医学専門誌 Rad Fan の 2024 年 3 月のオートプシーイメージング特集号で三重大学医学部附属病院の Ai センターについて紹介させていただきました。また、予防のための子供の死亡検証 Child Death Review(CDR) モデル事業の多機関検証ワーキンググループにオブザーバーとして参加させていただきました。

■ Ai 症例検討会

Ai の質の向上と現場への効率的なフィードバックを目的として、Ai 症例検討会を毎月開催しています。

警察からの依頼事例、司法解剖や病理解剖を実施された事例を中心に検討を行います。検討会には、放射線科医、救急医、病理医、法医学医、安全管理者、Ai 施行事例の主治医、診療放射線技師、さらに検視官を含む警察関係者などが参加し、多彩な見地からの検討を行っています。

新型コロナウイルスの流行により、2020 年からは外部の方を招いての検討会は開催が困難となったため、従来の検討会を中止していましたが、新型コロナウイルスが落ち着いてきた 2023 年 7 月より、従来の検討会を再開しています。

<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/bumon/ai/>